


整理番号	HT29183	分野	地学	キーワード	天気予報
------	---------	----	----	-------	------

研究機関名	愛知教育大学				
プログラム名	“天気予報のツボ”: 実況・予報データの分析実習や気象実験と合わせて学ぶ				
先生(代表者)	田口正和(たぐちまさかず) 教育学部・准教授				
自己紹介	私は、気象学(大気の大規模な変動やその予報の様子など)を研究する中で、天気予報の特性を調査する機会を最近得ました。ここでは、その機会を生かして、身近なようで実はよく知られていない、“天気予報のツボ”などを紹介したいと思います。				
開催日時・募集対象	平成 29 年 8 月 25 日(金)	受講対象者	高校生		募集人数
集合場所・時間	愛知教育大学・自然科学棟・地学実験室(538 室)		(集合時間)	受付 9:30~10:00	
開催会場	愛知教育大学・自然科学棟・地学実験室(538 室) 住所: 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 アクセスマップ URL: http://www.aichi-edu.ac.jp/campusmap/ (自然科学棟 3-1 の建物)				
内 容					
<p>皆さんは、普段から天気予報を見る中で、どのようにして天気は予報できるのか疑問に思ったことはありませんか。天気予報が外れた場合には、どうして外れるのだろうかと疑問は湧きませんか。</p> <p>天気予報は、身近な天気変化を、最新の気象学の知見と大規模な数値計算などで捉えようとする試みと言えます。予報精度は年々向上していますが、さらなる改善の取り組みが継続されています。</p> <p>このプログラムでは、天気予報の仕組みや歴史・現状などの講義に加えて、実際の事例・データによる分析実習や予報作成体験、気象実験などの様々な内容を予定しています。色々な角度から“天気予報のツボ”を勉強し、“天気予報ファン”になってみませんか。</p> <p>なお、本プログラムは、天気予報に興味があれば、理系・文系どちらの高校生も対象にしています。また、本プログラムは、高校・地学の受講を前提にしていません。</p>					
スケジュール				持 ち 物	
9:30~10:00	受付 集合場所: 自然科学棟5階地学実験室(538 室)前			・筆記用具 ・お茶など(夏期につき、各自で水分補給用にご用意ください。昼食・クッキータイム時の飲み物は用意します。) ・帽子等(キャンパスツアー参加の場合)	
10:00~10:20	開講式(挨拶、オリエンテーション、科研費の説明)				
10:20~11:00	講義「天気予報って何だろう?」(田口)			特 記 事 項 昼食(お弁当)を用意いたします。アレルギー等のある受講生は、各自で昼食をご用意ください。	
11:10~12:00	実験「気圧・上昇流・凝結を見てみよう」(榎野)				
12:00~13:00	昼食等(好天の場合、希望者にキャンパスツアー)				
13:00~13:50	実習「様々な天気図を見てみよう」(榎野)				
14:00~14:50	実習「自分で天気予報をしてみよう」(多々良)				
14:50~15:10	クッキータイム				
15:10~16:00	実習「天気予報の検証から、何が分かるかな?」(田口)				
16:10~16:30	終了式(アンケートの記入、未来博士号の授与)				
16:30	終了・解散				

《お問合せ・お申込先》

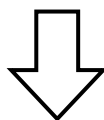
所属・氏名：	愛知教育大学 研究連携課外部資金担当・松川祐次
住所：	〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1
TEL 番号：	0566-26-2119
FAX 番号：	0566-95-0012
E-mail：	renkei@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
申込締切日：	平成29年8月8日(火)

※当プログラムは先着順にて受付を行います。

※定員を超える申込みがあった場合の結果と参加案内は、8月中旬までに郵便(またはメール)にてご連絡します。愛知教育大学「@office.aichi-edu.ac.jp」から送られるメールを受信できるようにしてください。

《プログラムと関係する先生(代表者)の科研費》

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
田口正和	H27-29	基盤研究(C)	15K05286	成層圏突然昇温・極渦強化の予測可能性と対流圏への影響
田口正和	H23-24	若手研究(B)	23740353	エルニーニョ・南方振動に伴う準二年周期振動の変調と力学
田口正和	H20-22	若手研究(B)	20740272	対流圏-成層圏における惑星波の季節内・年々変動観測と大気大循環モデル



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://kaken.nii.ac.jp/>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。